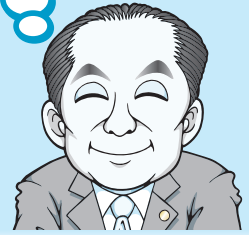


町長の一言



那珂川の清掃から

7月初旬の日曜日の朝、国土交通省、城里町が地元の良い印象を持って、那珂川のクリーン作戦を行いました。毎年参加をいただいている地元の皆様にも感謝申し上げます。

私も、この夏休み前の時期の那珂川の河原清掃には、旧御前山村の頃から30数年参加していますが、以前から見るとゴミの量は大分少なくなっているようで、行楽客や周辺のポイ捨てマナーが良くなってきたのかなという気もします。

他所の人の捨てたものを何で地元の人が清掃をしなければならぬのかと言う人も居りますが、私たちが他の観光地や行楽地へ行ったときに、きれいに掃除や手入れが行き届いていると、訪れた人に良い印象を持って気持ちよく帰ってもらえる「もてなしの心遣いでは」と話しています。

8月は夏休み真最中です。町内では、那珂川大橋、大桂大橋、千代橋の周辺の河原で、大勢の人がキャンプや釣りをしていますが、ぜひ、自分で持ってきたものは、自宅まで持ち帰り願いたいと思います。

くれぐれも、河原だけはきれいに片付けても、近所のゴミ集積所や途中の道路わき等に捨てないようにお願いします。

文芸しるさと

俳句

男梅雨木は瀧のごと水流す 山崎 正行
青田風丘の上なる絵画展 いそべきよ
老鶯の声遠ら近ら湯治風呂 飯村 愛子
梅干しをほめられ孫をほめられし 今瀬 多代美
水平線次の夏雲生まれけり 鯉 淵 寿美恵
春菊の花の勢ひ夏至の朝 田所 厚子
手の上の鉛のいろいろ額の花 竹内 幸子
速達封筒白く梅雨明けし 高橋 芦江
太き鯉浮き葉の影に生きてをり 仲田 まちゑ
螢袋旧道に咲き揺れてをり 川村 昭子
峡清水交はる川の鮎太り 阿久津 あい子
けもの道山紫陽花の群れ咲けり 和田 範子
菜菔赤しもう使はれぬ登り窯 瀬谷 博子
段だらを螢ブクワか沢の風 田口 勝元

短歌

牡丹の薄桃色の大輪が庭に 耀えば飽かず眺むる 秋山 愛子
母の日にエステのチケット贈らるる娘の心想ひ洒落てみようか 大森 久子
コウノトリが宮家に運びし御慶事に新しき生命の輝るも近からむ 高堀 よしの

無農薬の野菜洗へば浮びきて 届けてやりたし街に住む娘に 佐川 あや
急ぎある時の一分間長し気を揉みにつつ待つも一分 杉山 みちこ
亡き夫の残せし言葉「喜びを人に与えよ」を心にて生く 宮本 ふみ江
護國神社の大きな慰霊碑を見仰ぐれば戦に逝きたる兄をおもはる 所 美恵子
今生の悩み苦しみ鎮めんと「観音菩薩」は微笑みて待つ 青柳 京子
杏き日の母の匂いする服のあり捨てがたきもの木箱に仕舞いぬ 山形 式妙
老人ホームへ行く車から嬉しげには、えみしが生ける最後の面 藤原 千代
みどり児に乳齒ちらりと見え初むる若葉にみづみづと雨上がる朝 渡辺 千紗子
草を引く背に真夏日のじりじりと汗流るれど拭えぬ泥の手 仲田 こう
朝光を浴びて真白なほうの花山並み続く緑の中に 岩下 通子
水しぶき浴びて眺むる荘厳さ緑豊かな四度のたきかな 岩下 美知野
在りし日の友の形見の金キアラは芽吹き美し今を盛りに 阿良山 ウメノ
目の前に富士に似た山見える家そんな所に住める幸せ 富田 欽子
歩み来て孫のたかきご持しかり卵の花盛りひ孫も唄う 市川 義子
嬉しきは朝の光の満つるとき精一杯に生さんぞと思う 山口 栄

川柳

人の世の幸は何かは知らねども今あるままを幸と思わん 秋葉 久子
桂市とわが名呼ばはん笠間焼嵐山てふ山を擁して 秋葉 主計
鉛色の大根の煮物息もつかずただに食みたり嫁の手料理 薄井 ぬくみ
吹雪きくる桜の花びらぬくみたる肩にかかれり山家の温泉 枝 不美
啼けるだけなきたる鶯飛びゆけりどつぷりみどりの「風隼」の杜を 片見 和枝
人の世の「いのち」のはかなき思ひつつ祈りにも似て見上ぐる大杉 川上 千代子
我ひとり乗せて着きたる夕暮のバス停通りは人影もなし 島 愛子
お互いに会話少なくなりし日々補聴器より入る音の馴染めず 多田 志保子
仕事せむと起きて出づれば店の前明けの三時の雨ふりそれゆ 坪井 きよ子
「鉄矢」演ずる温かき涙と笑いとどの劇に浸りいて腰痛忘る 萩谷 登喜子
花菖蒲見ゆる山本亭の茶室にて明治を偲ばす歴史に包まる 和知 美智子
木洩日光る奥入瀬溪流歩みたり十四キ口はさみどりの中 富田 佐智子

禿頭も人並みに払う理髮料 山本 隆 莊
知ったかさん何だか知らぬ話する 青木 新三郎
やけっぱらミサイル撃って四面整歌 富田 多蔵
文集も学校長の検閲済 加藤 鉦好